学校だより　４月号巻頭文

『平成』から『令和』の時代へ

校長　関根　茂夫

４月１日、午前１１時３０分前、部活動のために登校していた新２・３年生約３０名ほどが、この後予定されている、新元号の発表の瞬間を目に焼き付けるため、校長室に集まりました。

そして、予定の時刻をやや過ぎ、菅官房長官が会見場に姿を現し、それまで賑やかであった生徒が固唾をのんで見守ったその瞬間を迎えました。

『令和』

再び、校長室は歓声に包まれました。

出典は、現存する日本最古の歌集「万葉集」で、初めて国書から採用されたという点も話題になりました。また、その後、安倍首相からは「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ、という意味が込められている」との見解もあり、いよいよ５月１日より新元号『令和』の時代が始まる雰囲気が高まった瞬間でもありました。

そして今日、４月８日、午前中、始業式、午後に『平成』最後の第３７回入学式を行い、１１３名の新入生を迎えました。

どちらの式でも生徒たちは、厳粛な雰囲気を保ちつつ、立派にそれぞれの式をやり遂げることができました。また、生徒一人一人が新年度へ向けての熱い想いを胸に秘めている様子を感じ取ることができ、教職員一同、『令和』を生きる生徒たちの成長を心から期待しているところです。

私は、始業式では２・３年生に「未来の自分づくりのために、自ら意識して行動変容し、吹北中生一人一人が新しい自分に成長しよう」、入学式で新入生に「吹上北中学校の伝統を受け継ぎ、まずは３つのハードル（学習・友人関係・部活動）を本気になって乗り越える吹北中生になろう」という想いを伝えました。

さて、元号が変わっても、学校は言わずもがな「学ぶ場」です。

学ぶこととしては「友達との関係」「共同生活を送る上での常識」「自分が果たすべき役割や責任」などもありますが、新しい『令和』の時代を、たくましく生き抜いていくための「基礎学力」を習得することは最も大切な学びです。

そのために、学校の多くの時間は「授業」であり、９教科を中心に毎日計画的に行われています。しかし、ただ授業を受身的に受けているだけでは、なかなか「基礎学力」が身につく訳ではありません。

よく学校では「自ら進んで・・・」「積極的に・・・」「継続的に・・・」といった言葉を目にします。つまり効果的に「基礎学力」を身につけるためには「学習意欲」と「学習習慣」が大切な要因とされます。

「基礎学力」＝「学習意欲」×「学習習慣」という公式があるくらいです。

昨年度の本校の実態、評価結果から課題の一つに「学力向上」があります。
そこで、その課題を解決する方策として、今年度次の２点について重点的に取り組みます。

○ 「学力向上」研究委嘱の取組

本校では今年度から２年間、市教育委員会・市教育研究会の研究委嘱を受け「学力向上」を目指した学習指導の研究に取り組みます。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の中でも“対話的”に注目し、生徒―教師間、生徒―生徒間の効果的な対話の場面を取り入れた授業の進め方をお互いに研修し、吹北中生の学力向上をめざし、教科枠を超えた校内研修、定期的な研究授業の実施等を通して、本校の実態に合った「学力向上」策を研究してまいります。

○ 全校自学ノート（ＪＧＫ）の取組み

今年度も全校を挙げてＪＧＫ（JiGaKu）の取組を継続します。全校生徒が家庭学習の一環として各教科で出される宿題とは別に、自学ノートを活用し、毎日家庭で学習し、その成果を毎朝提出する約束になっています。学級だよりや学年だよりを通じて、頑張っている生徒を紹介し、効果的な自学の取組みを全校で共有し、学習習慣の定着を図ります。

さて、平成最後、令和元年の今年度、吹上北中学校は、昨年度までに引き続き、学校教育目標「夢に向かって学び、鍛える心豊かな生徒―夢・学・恕―」、校訓「凡事徹底」（当たり前のことを当たり前にする）、実践行動「あいさつ、返事、脱いだ靴を揃える」のもとに、教育活動を展開してまいります。

生徒一人一人の良い面を伸ばし、吹北中をより一層立派な学校にするよう、職員一同努めてまいりたいと存じますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

また、保護者の皆様、地域の皆様には、引き続きご支援・ご協力いただくとともに、ご来校の際に率直なご意見・ご感想を賜れれば幸いでございます。

なお、本年度の生徒数は、新１年生１１３名３学級、２年生１０６名３学級、３年生１１０名３学級、特別支援学級２学級　合計３２９名、学級数は１１学級でスタートしました。教職員は、県費教職員、市費職員、臨時職員の方を含め、総勢３８名です。

このスタッフで、『令和』をたくましく生き抜く吹北中生が卒業後いつまでも「明るく元気　誇りに思えるわが母校　吹上北中学校」と母校を大切にする心を持ち続けられる学校づくりに励んでまいります。なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

鴻巣市立吹上北中学校　部活動に係る活動方針

◆活動の基本方針

○学習活動と部活動との両立を通して、充実した中学校生活の実践を図る。
○部活動を通して、体力向上やスポーツの振興、芸術・文化・科学への興味関心の伸長を図る。
○自主的・自発的な部活動を通じて、生徒同士や教員等との望ましい人間関係の構築を図る。
○計画的で効果的な活動の実践を通じて、生徒の心身の健康の増進を図る。

◆指導体制の整備について

○生徒の実情に合わせた運営が行われるよう、管理職の指導の下、顧問を中心に生徒の意見を取り入れながら計画的に活動を実施する。
○各顧問は年間、月間の練習計画を作成し、生徒及び保護者に公表すると共に、管理職に提出する。
○部の活動方針や練習計画について、生徒及び保護者の理解が得られるよう、年度当初の部活動保護者会等を通じて十分な説明を行う。
○管理職は適宜部活動の様子を視察し、生徒及び顧問の状況を把握し、支援すると共に必要に応じて改善点について指導、助言を行う。
○専門的な知識技術をもつ外部指導者を積極的に活用し、生徒へ専門的な指導、サポートを行う。

◆具体的な活動の進め方について

○施設や設備の点検を定期的に実施し、事故の防止を徹底する。
○ケガなどの防止のため、生徒の健康状態、気候状況を常に把握し、状況に適した活動を行う。
○職員研修、部活動顧問会を通じて、定期的に研修、情報交換を行い、体罰やハラスメントの根絶を目指す。
○生徒間のいじめやトラブル等の防止のため、顧問教諭、担任、養護教諭等の連携を図る。
○生命を最優先することから、教職員全員が参加する心肺蘇生法やＡＥＤ使用の研修を実施する。
○生徒が自主的かつ自発的に活動できるよう、効率的で安全な練習計画、練習メニューを作成する。
○部活動費用（部費など）の徴収、個人用具の購入等をする際は、管理職の指導の下、保護者の理解を得ると共に、会計報告を行うなど適正な処理を実施する。

◆適切な休養日等の設定について

○学期中は、原則、朝練習を含め水曜日を休養日とする。但し、公式大会１か月前はこの限りではない。
○土曜、日曜日は、原則どちらかを休養日とする。但し、公式大会１か月前はこの限りではない。
○中間テストは５日前から、期末テストは７日前から部休とする。
○大会やコンクール等の参加については、生徒、及び顧問、保護者の負担を考慮し精査する。